



京都府印刷工業組合

春号

SPRING ISSUE

京印季報

Kyoinkiho

2021 SPRING

Special Contents:

特別対談

「笹原理事長 × 波部広報委員長」

～京印季報、組合ホームページをリニューアル～



VOL.654 2021 SPRING

- 1 | 巻頭言 / 理事長 笹原あき彦
- 2 | 特別対談「笹原理事長 × 波部広報委員長」
- 4 | 令和2年度 近畿地区印刷協議会 例会開催(Web 会議)
- 5 | 「京都ビジネス交流フェア 2021」にブース出展
- 6 | 京都府印刷企業の賃金実態調査
- 8 | 官公需対策セミナー開催
- 9 | 委員会だより / 共済委員会
- 9 | 会合だより / 京都府印刷関連団体協議会
- 10 | 会合だより / 京都青年印刷人月曜会
- 10 | 会合だより / 京都印刷協和会
- 11 | 関連団体だより
- 12 | 組合員 NEWS
- 14 | コロナ対策支援ボックスのお届けについて
- 14 | 新型コロナウイルス感染症に関する
事業者向け支援制度について
- 15 | 印刷会館利用状況
- 15 | 組合日誌
- 15 | 事務局からのお知らせ
- 16 | 組合創始 130 周年記念事業のご案内
- 17 | 1月・2月・3月 定例理事会開催概要
- 17 | 組合員異動
- 17 | パートナースhip会員異動
- 17 | 表紙作画者紹介
- 17 | 編集後記



私の住む街に流れる山科疏水では
数日前から、何両にも連結された花筏が
見事に流れるこの時期ならではの風情が楽しめています。
例年ですと4月に入り、暫くしてからが満開になるエリアなの
ですが、今年は全国的な動きと同様に二週間ほどの早咲きで
した。

わたし達がコロナ禍に翻弄されている間も、大自然の営み
はコロナ禍とはまったく無縁と言わんばかりに、淡々とそして
粛々と自らの役目を果たしているのだと、満開の花を見てそう
感じました。私たち人間も事あるごとに一喜一憂することなく、
その日、その時、その瞬間をしっかりと着実に歩んでいくこ
とが出来よう、サクラを見習いたいと思います。

前号等でのお知らせのように、本誌は当号よりA4判に拡
大され、誌面も刷新いたしました。リニューアルに寄せる想い
や期待については、2ページの「波部広報委員長と対談」に詳
しく掲載いたしました。そちらも併せてご覧いただければ幸い
に存じます。

さて、組合創始130周年記念式典まで、残すところ2箇月を
切りましたが、式典の成功に向け、実行委員会をはじめ3つの
事業部会がそれぞれの部会長を筆頭に、様々なアイデアを捻
り出し、参加くださる皆様に喜んでいただき、そして記憶に残
る式典となるよう、日々準備を重ねています。

しかし、式典に参加されます方にとって、大きな心配事はコ
ロナウイルス感染のことかと思ひます。組合そして会場のホテ
ルでは、現在考え得る感染予防の数々の対策をもって開催い
たしますので、万象お繰り合わせの上ご参集賜り、皆さまとご
一緒に創始130周年、そして顕彰、表彰の方々をお祝いしたく
存じます。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。



<https://kyoinko.jp/>



京都府印刷工業組合
理事長 笹原あき彦



特別対談 「笹原理事長 × 波部広報委員長」

～京印季報、組合ホームページをリニューアル～ これからの広報活動に求められる事

組合員の皆様にご愛読頂いている「京印季報」は、前身の京都印刷紙工業協同組合の時代の昭和24年9月1日に第1号「時報」を発刊。以降、「京印時報」「京印月報」「京印季報」と名称の変更はありましたが、今日まで当組合における広報活動の中心的な役目を果たしてまいり、本年4月春号より、サイズをA4判に拡大し、装い新たに内容を一層充実させて発行することとなりました。

また、組合のホームページは、平成14年3月に初めて運用を開始して以来、平成17年8月、平成27年5月の2度のリニューアルを経て、本年2月27日に第4期目のシステムが完成し、その後の確認作業の後、3月25日にアップを済ませました。

奇しくも組合の広報活動の中心的な役割を担う二つの媒体が同時にリニューアルされることを受け、組合の広報活動のあり方をテーマに、笹原理事長と波部広報委員長による特別対談が行われました。是非ご一読ください。



京印季報のリニューアル ～機関誌発行の目的と役割り～

波部委員長:早速ですが、京印季報は本誌春号よりA4判にサイズが変わり誌面も一新されました。リニューアル発行に際して期待されることをお聞かせください。

笹原理事長:寸法がA4判になることで多彩な表現が可能になり誌面作りの自由度が高まります。本号より制作・印刷を担当して頂く岩本印刷様とは、誌面を更によりよくするため、私たちと一緒に様々な表現にチャレンジしたいと思っています。

波部:機関誌発行の目的と役割についてはどのようにお考えですか？

笹原:機関誌の役割は、組合事業やサービスのご案内等、組合員並びに従業員の皆様への有益な情報の発信です。一方で、関連業界、行政や教育機関等にも組合や業界情報を発信しなければいけません。何故なら、将来、私達のお客様になって下さる人、私達の業界に入って下さるかもしれない人達に、印刷とはどのような産業で、組合はどのような活動をしているのかをお伝えしなければなりません。どちらに比重をかけるのかといえ、やはり組合員への情報提供だと思います。



ホームページのリニューアル

～広報活動におけるデジタル化の推進～

波部:京都市の助成金を活用し、ホームページも一新しました。季報は3か月に1度しか発行できませんが、ホームページは思い立ったらタイムラグなく情報を発信できます。過去の資料を調べるときも、Webにアップされていればすぐに探すことができるので便利です。インターネットの黎明期は回線速度が非常に遅く、画像が直ぐに表示されませんでした。光回線で状況が一変しました。

笹原:回線速度の問題が無くなり、ネットを活用することが次第に市民権を得ました。高速化がさらに進むと、「感触」や「匂い」等を伝えることができるかもしれません。「感触」が伝われば、医師が血管を結ぶなどの細かな作業を求められる手術さえもリモートで執行できるかもしれませんし、世界中の印刷機を稼働できるかもしれません。デジタルオンリーではいけません、デジタルのすばらしさ、便利さ、優位性を活かして組合の広報物にも積極的にデジタル化を推進して欲しいと思っています。



<https://kyoinko.jp/>



これからの広報活動に求められること ～組合員の皆様にお届けしたいこと～

笹原: 今、組合員の皆様に最もお届けしたい情報は、「働き方改革」、「SDGs」、「ダイバーシティ」、「DX」等です。本部団体の全日本印刷工業組合連合会では、「Happy Industry～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業～」をテーマに、働き方改革ではステップ1から5までの取り組み指針を周知・啓発しています。今後はDXについても具体的な内容が発表される予定です。当組合においては、引き続き働き方改革やDX等を実現するための施策の研究を進め、組合員の皆様へ有益な情報をご提供できればと考えています。

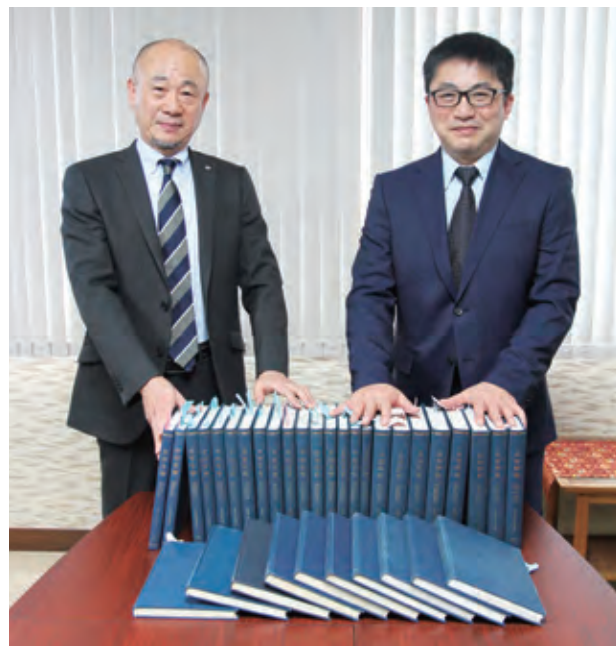
波部: 様々な情報を得た上で取捨選択することが重要だと思います。そのためにも、広報活動を通して組合員の皆様が情報収集できる機会を増やしたいと思っています。

笹原: 情報を扱う産業の一員として、私達印刷会社には、お客様の困りごとと一緒に考え、解決する「ソリューションプロバイダー」としての役割が求められています。

印刷産業の出荷額が5兆円を切って久しい中、この先も勝ち残る会社になることを考えたとき、ソリューションプロバイダーへの取り組みが一つのヒントになると考えています。会社を存続するためには利益を得なければなりません、そのためには価格競争に巻き込まれないこともポイントの一つです。ソリューションプロバイダーとしての課題解決力があれば、価格以外の面でお客様にアピールすることができます。利益を確保しながらお客様の望むサービスを提供することができます。そのために提案力を高め、付加価値をつける。或いは隙間を探すことも一つの手法だと思います。印刷会社はお客様の課題をよく知っているはずで。

波部: 広報活動を推進する上で大変参考になりました。本日はありがとうございました。

(令和3年2月18日収録・文責:編集委員会)



紙媒体と電子媒体の違い ～アナログとデジタルの特徴を活かして 関連付ける～

笹原: 電子辞書と紙の辞書のどちらが便利かという論争があります。電子辞書は検索できる、文字を大きくできるなどの特徴があり、一方紙には一覧性という特徴があります。新聞の大きな誌面だからこそ複数の見出しを一度に見ることができるのです。スマートフォンの小さな画面では不可能です。

また、機関誌は届けた人にしか見てもらえませんが、ホームページは回線に繋がる全世界の人、不特定多数の人に見てもらえます。加えて、Webには速報性があり最新のニュースを流せます。SNSを通して多数の人の声を聞くことができますし、収集すれば私達にとってのビッグデータとなり得ます。

波部: 紙ならではの魅力もありますね。

笹原: 紙の魅力は五感に訴えることです。これは決してWebでは味わえません。本は持つことで重みを感じます。触れることで、例えばハードカバーであれば硬さや高級感が伝わり、布クロスの手触りで優しさが伝わります。また、本はしなり、インクの匂いもします。目で見ただけでなく、触感や嗅覚など全身で捉えることができるのがアナログの圧倒的な強みですが、これから通信技術が発達し、5G、6Gになった暁には、五感さえもバーチャルの世界で味わえる時代がくるかもしれません。

波部: 電子媒体には速報性があり、改版も繰り返し可能ですが、京印季報など紙の媒体は記録として残ります。

笹原: 今、組合創始130周年事業の記念プログラム作成に向けて組合の歴史を紐解いていますが、拠り所となるのは、実は機関誌等の紙媒体なのです。Webは記録を残そうとしても、新しい情報が上書きされる事が多く古いデータは消滅しがちです。記録面での優位性がアナログにはあります。

波部: 今後、紙媒体をアーカイブ化し、Webと関連付けることができれば効率よく情報収集ができるようになりますね。